

珠洲だより ～第5号～

～活動報告～



2月のメンズクラブはピースウィンズジャパンさんと共催で、金沢医科大学病院感染症科の飯沼由嗣教授にお越しいただき、感染症対策について分かり易い講話の会を開催しました。今年度、金沢医科大学病院からは、オムニバスで各科の先生方にお越しいただき住民さんを対象とした「健康講話の会」が行われます。その第2回目をメンズクラブの中で開催させていただきました。先生の話易い雰囲気、に参加した住民さん方から様々な質問が飛び交い、健康への関心が高まっている様子を感じました。



3月15日 国立病院機構医王病院に併設されている、石川なんびょう診療連携室「ランプ」との共催にて、「たいせつないのちと暮らしを守る in 能登 ～今、わたしにもできる災害対策～」をテーマに、講演会を開催しました。午前1部に富山大学脳神経内科の中根俊成先生を講師に「病気を持つ人の視点から災害を予防する」のテーマに講演いただきました。

Ⅱ部では、岩手の北上市から北良株式会社の方々にお願いいただき、笠井健社長による「こころと身体の健康を守る快適な避難環境の作り方」をテーマに講演いただき、避難用具の体験会も行いました。



とくに、遠隔コミュニケーション「窓」には、関心が集まり、現在石川県内では、調剤薬局での使用が開始しているとの話を伺いました。

遠隔での診療での使用や、災害時などでは、災害対策本部と避難所とを繋ぎ、現状を視覚的に即座に伝えることができるとの説明を受けました。

日本医療ソーシャルワーカー協会の岩手大会でも協賛で参加されるとの事です。

北良株式会社は、能登半島地震の際、珠洲市内に手洗い器を搬入してくれていたり、珠洲市の飯田高校のウエイトリフティング部のサポーターを行っていることも伺い、当協会や珠洲市とのこうしたつながりに改めて温かい気持ちにさせていただきました。

午後にはⅢ部として、石川県防災士会の方2名を講師に、「女性のための防災士講座～防災士について学ぼう～」を開催しました。まだまだ震災の後が残る珠洲市で住民の方を対象に防災の話をすることには、私自身少し躊躇する部分がありましたが、住民さんの「今だけ

らこそ学びたい。」との声を聞き、今回の講演を実施することにしました。珠洲には“とと楽”という言葉があり、“かか（女性）”が働きものなので、“とと（男性）”が楽できる、という意味だそうですが、今回の企画をするときに「珠洲はまず女性が始めると、動き出すよ。」との言葉を聞き、今回のテーマが決まりました。今回講演に来ていただいた防災士の方は、以前訪問時にお会いした方との縁がつながり出会えた方でもあり、ここでも“縁”がつながり、実を結んだ講演会となりました

珠洲市内でも、防災士の資格を取られている方はたくさんおられるとの事ですが、組織化や実際の活動がなかなかできていないとの課題も伺いました。

これからそうした課題にも何らかのサポートが出来ればと思っています。



Ⅲ部までの一日を通じて、現地では約 80 名、オンデマンドでは 200 名を超える参加者となりました。春まだ浅い時期ではありましたが、縁がつながり、充実した温かい会となりました。企画から準備も含め、ご尽力とご協力を頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

活動を終えて

年が明けてから、多忙な日々を過ごしておりましたが、あっという間に 3 月も末日を迎えることになりました。全国から支援に来て頂きました皆様、石川県医療ソーシャルワーカー協会の皆様、石川県精神保健福祉士会の皆様、ささえ愛センターの皆様を始めささえあい見守り支援事業に関わっていただきました各団体の皆様に心より感謝申し上げます。共に支えていただけたことで、2 年間を無事に終えることができました。これからの皆様のご活躍とご健勝を心よりお祈りいたしております。本当にありがとうございました。



2024年3月31日撮影

珠洲市内に入り、一番に迎えてくれた桜の花の写真です。*地元では谷崎（たんざき）の桜と呼ばれています。

この桜が、私の不安を取り除き、そこから珠洲に滞在しての支援活動が始まりました。



2026年3月27日撮影 今年もこの桜に出会えました。変わらずにそこに居てくれることの有難さや、尊さを感じます。そこに居てくれるだけで感じてもらえる安心感や背中を押してくれる強さは、ソーシャルワーカーの有りようにもつながるのだと思っています。